

事業名	中心市街地活性化事業	総事業費	2,000 千円
-----	------------	------	----------

① 計画（Plan）

長期振興計画 の位置づけ	施策名	商工業の振興
	基本事業名	港町（商店街）の活性化

② 実施（Do）

事業の意図		①運営してもらう ②商店街に集まる
事業の実績 と 成果	取組内容	市商工会の主体的な活動として、補助金を交付する。 補助金の申請受付、審査、決定通知、概算申請受付、概算交付、実績報告受付、確定通知
	成 果	（アート）・参加アーティスト 韓国8名 日本1名 計9名 ・作品数 アート看板 14基 壁ギャラリー 21点 おさかなアート 3点 アートベンチ 2点 火縄銃モニュメント 1基 計41点 （食） 飲食店マップ作成 ・市民参画が進んでおり、市民の認知も高まっている。 ・継続的な取組により、作品が集積されてきたことから観光客などからも問い合わせがあり、まちなかを歩くことの楽しみへとつながっている。

③ 振り返り（Check）

事業実施上の課題 （事業担当者記入）	（アート） ・継続的な取組として商店街への誘客が図られているが、補助による事業の実施ではなく、自立へ向けた取組も検討する必要がある。 ・人的な部分においても負荷がかかっており、その対策を検討する必要がある。 ・2020年度で10周年となることから、商工会とも連携した検討が必要である。 （食） ・参加者や活動が見えにくい。
評価結果の根拠 及び今後の課題 （担当課長記入）	中心市街地の活性化を図る目的で、商工会のまちづくり委員会を中心に商店街の魅力向上と活性化を目指し、芸術や食等をテーマに活動が行われ、本年度で9年目を迎えた。芸術については、くろしおの芸術祭として、主に韓国からアーティストを招聘し、多くの市民が参加してアートイベントが行われた。制作された壁面造作やベンチ、看板等は、形が残るものとして中心市街地に配置され、彩り鮮やかに歩いて楽しい街並みが海の玄関口である西之表港から商店街にかけて形成されつつある。来年度で10周年となることから、継続的な取り組みにするためにも、組織的に自立できる体制づくりが課題となっている。一方、食を通じたPRや個店の魅力向上については、引き続き効果的な手法かどうか見極め、相乗的な効果に繋がるよう検討が必要である。

④ 改善（Action）

2020年度方向性	本事業は商工会のまちづくり委員会が実施する事業への補助である。 くろしおの芸術祭は、島内外から評価が高く、商店街への回遊とつながっていることから、継続的な取組として更なる関係者・参加者の増加や幅広い周知など、効果の拡大を促す。今年度は10周年となることから、今年度の取組に向けて協議を行っていく必要がある。 食への取組も計画されていることから、商店街の活性化に効果的な活動について十分に検討したうえで実施していくよう、商工会事務局と連携する。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	くろしおの芸術祭の壁ギャラリー

事業名	宇宙芸術祭事業
-----	---------

総事業費	0 千円
------	------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	商工業の振興
	基本事業名	港町（商店街）の活性化

② 実施 (Do)

事業の意図		①支援する ②誘客する
事業の実績 と 成果	取組内容	くろしおの芸術祭との連携を行い、商店街への誘客を図った。 宇宙芸術祭としては、千座の岩屋でのスーパープラネタリウムの開催等、種子島全島を利用した取組を実施した。 本市においては、インフォメーションセンターでのワークショップの開催等を実施。
	成 果	島外からの誘客にもつながっているとの実行委員会の説明はあるが、本市商店街への誘客につながっているかについては疑問がある。

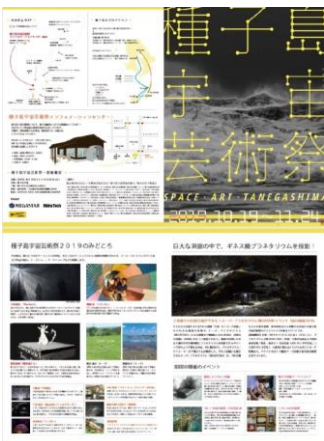
③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	くろしおの芸術祭との連携は図られているが、その他のアーティストとのコラボが実施されず、南種子町が主会場となることから、さらなる商店街への誘客が課題である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業については、1市2町の行政及び関係関係団体等からなる宇宙芸術祭実行委員会（事務局：南種子町）により実施されており、宇宙をテーマに種子島の全島で様々な作品やアートプロジェクト、地元の方を講師にした種子島大学等イベントが毎年繰り広げられている。本市においても、既存の黒潮の芸術祭とも連携することで相乗効果を期待しつつ取り組んでいる。一方で、主な芸術家の活動や作品の展示が、南種子町を中心に行われており、市民の関りや効果を明確に把握することが難しい。また、瀬戸内海の直島や他の芸術祭を地域の活性化に繋げている取り組みのように、島民の盛り上がりやおもてなし感をいかに充実させるも課題である。

④ 改善 (Action)

2020年度方向性	昨年度まで実施してきた種子島宇宙芸術祭によって明らかにされてきた地域資源や新たな価値を、東京オリンピック、パラリンピックへ向けて、世界発信できるプログラムとする。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	宇宙芸術祭ポスター

事業名	まちかどインフォメーションセンター事業
-----	---------------------

総事業費	6,282 千円
------	-------------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	商工業の振興
	基本事業名	港町（商店街）の活性化

② 実施 (Do)

事業の意図		①集客する。情報発信を行う。 ②利用する。 ③運営する。
事業の実績 と 成果	取組内容	まちなかの拠点施設の一つとして定着しつつあり、イベント等の利用の増加も見られており、i通信の発行による積極的な情報発信にも取り組んだ。利用者も含めた運営委員会を設置し、利用者及び来館者の視点から意見をいただくことも行った。商店街振興協同組合とも連携して、市民が主体的に活動できる場として活用された。また、実績には結びつかなかったが、商店街の事業承継のマッチングを図るなど、商店街の存続に向けた取組が展開され、本年度は交付金の最終年度となることから自立へ向けた取組も実施した。
	成 果	・イベント 19件 ・展示会 1件 ・サークル・教室 13回 ・セミナー・会議等 13回 ・市民の作品発表の場やまちなかの休憩所、wi-fiが利用できる場としてのみならず、マルシェ等の商業のテストを行う場ともなっている。 ・運営委員会による市民視点での取組として、休館日の変更を行うなどし、来館者数も増加した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	・商店街の利用が少なく、商店街の店舗が連携した本施設の活用も検討し、商店街の店主の意欲を高める取組も必要である。 ・施設の老朽化が進んでおり、利便性を高めるためには場所の移転等も必要である。 ・商店街への波及を考慮した企画等が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	商店街の空き店舗を活用し、様々な情報発信と交流の場として商店街への誘客を図り、さらに個店と個店を繋ぐハブ役として取り組んできている。紙媒体での広報誌発行のほか、インターネットを活用した F a c e b o o k による情報やフリーマーケット等のイベントも開催し、子供から高齢者まで、幅広い方々に利用して頂き、認知も広がっている。一方で、少子高齢化により商店街への利用客そのものが減少しており、商工会や商店街振興協同組合、通り会等とも連携し、商店街全体の更なる魅力化と波及効果を高める必要がある。また、機能（事業）の継続性の観点から、様々な課題を踏まえ、自立に向けた活動へ転換していけるよう引き続き試行しながら検討していく。

④ 改善 (Action)

2020年度方向性	商店街での活動の拠点として、商店街の情報発信とともにイベント等を開催し、商店街への誘客へとつなげる。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	10月6日開催 マルシェの様子

事業名	商店街景観統制事業	総事業費	1,735 千円
-----	-----------	------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	商工業の振興
	基本事業名	港町（商店街）の活性化

② 実施 (Do)

事業の意図		①景観について協議する ②利便性を向上する ③支援及び協議する
事業の実績 と 成果	取組内容	関係者企画運営等 協議、補助金処理。 ・景観統制について、商店街振興協同組合と協議し、県道沿いの商店主等とのワークショップの実施の支援等を行った。 ・本市施策との整合性や連携について関係者と協議し、情報の共有等を図った。 ・先進地への視察についてアドバイザーとして同行した。
	成 果	・セミナー 1回 ・ワークショップ 3回 ・先進地視察 1回 ・インバウンド対策用マップ及びポスター製作、配付 ・ワークショップの成果及び鹿児島大学の調査結果を報告書として作成

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	・ワークショップへの参加者の増加や市内全体への波及を検討する必要がある。 ・協議された内容に基づき、店舗等が実際に景観について取組を実施できる環境整備が必要である。 ・地方創生推進交付金の最終年度であることから次年度以降の事業継続について検討が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	「港町再生」の基本構想を補完するものであり、商店街振興組合に商店街活性化委員会を設置し取り組んできた。商店街に多くの方々を呼び込むための魅力づくりとして、景観を中心に大学の建築専門家や商店街関係者を交えたワークショップを開催し、議論した内容をさらにイメージとして共有し、将来のまちづくりへの意識を深めることができた。参加して頂いた事業所の中から、実際に店舗を改装する際に参考とする方も現れるなど、自ら街中の魅力づくりに貢献しようとする動きも出てきた。3年間の事業として今年度で終了するが、まちづくりの方向性が明確化されたので、商店街関係者等との連携を図りつつ、実証試験も含めより具体的な事業展開を図り、商店街の活性化に繋げたい。

④ 改善 (Action)

2020年度方向性	令和元年度事業終了
-----------	-----------

【参考資料】	
※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	景観統制事業ワークショップの様子

事業名	商店街魅力創出事業	総事業費	3,000 千円
-----	-----------	------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	商工業の振興
	基本事業名	港町（商店街）の活性化

② 実施 (Do)

事業の意図			①商店街へ集客する ②交流を図る ③支援する
事業の実績 と 成果	取組内容	関係者企画運営等 協議、補助金処理 ・鉄砲まつりに合わせたイベントの周知や運営に対する支援を行った。 ・パネル展等の実施の支援を行った。 ・情報発信に伴う支援を行った。	
	成 果	(イベント) 鉄砲まつり演芸大会ミニライブ 約80名 サイン会 約15名 聖地巡礼ラッピングバスツアー 参加者5名 パネル展 (イベント参加) かごしまeスポーツフェス 出展	

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	・本年度はゲームの舞台ともなっている鉄砲まつりと連携した企画を行い、市民にも周知するとともに観光客の誘客、商店街へ集客につなげた。 ・アニメ及びゲームの利用については製作側との著作権等もあり、時間を要することから、事前の取組を速やかに進めていく必要がある。 ・商店街への波及を検討する必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	平成29年度に種子島がアニメ聖地88選に選ばれ、また30年度には新たに本市商店街を中心に舞台となったアニメゲーム（ロボティクスノーツ・ダッシュ）が発売された。本年度は、ゲームの舞台ともなっている鉄砲まつりと連携した主題歌のミニライブや聖地巡礼ツアーを行うなど新たな機会を通じてPRの取り組みを行った。アニメ及びゲームの利用については、製作側とのロイヤリティ（著作権）等もあり、活用については、手順を踏まえながら、どのように効果を上げていくかが課題である。また、コアなファン層を随時島に呼び込み、満足して頂くために受け皿を充実するとともに、観光協会のアンバサダーの活用と経済的な活動へと繋げる仕組みづくりが今後の課題である。

④ 改善 (Action)

2020年度方向性	市商店街振興協同組合に補助を行い、組合の特別委員会である商店街活性化委員会により実施されている事業である。本年度は、地方創生推進交付金事業（世界に向けて「おじゃり申せの島」経済交流拡大事業）の最終年度（H29～H31）であり、本事業も交付対象最終年度となる。本年1月にゲームソフトが発売されたことを踏まえ、鹿児島市内で開催されるゲームイベントへの出展、ゲームの舞台となっている鉄砲まつりで、市民へのPRや観光客の誘客のために歌手や声優の出演、サイン会、バスツアー、インフォメーションを活用した展示会等を計画実施していく。また、アニメを活用した特産品の開発も検討する。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	鉄砲まつりの様子

事業名	港町再生検討推進事業
-----	------------

総事業費	8,536 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	商工業の振興
	基本事業名	港町（商店街）の活性化

② 実施 (Do)

事業の意図		①情報共有する ②協議する
事業の実績 と 成果	取組内容	推進検討委員会及び市民検討組織並びに庁内検討委員会を組織、運営、協議を行い、基本構想に基づく、実施計画の策定を行った。 先行して、歩きたくなるみなとまちを目指した道路空間デザインについて検討を進めた。 みなとラボではカルタの制作を進め、芭蕉布プロジェクトも資材の整備等を進めた。 分団跡地についても事業所とのマッチングイベントに参加。
	成 果	港町再生基本構想実施計画書の策定。 市民組織（みなとラボ）の自主的な運営。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	・ 市民への基本構想及び実施計画の周知 ・ 今後の実証実験等の周知 ・ 市民の当事者意識の醸成
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	「港町再生基本構想」に基づき、庁内関係課とも協議し、当初予定どおり実施計画をとりまとめた。また、商店街や地域の代表者からなる道路空間デザインの在り方を検討する委員会を新たに設置し、次年度社会実験するための計画づくりも行い、基本構想の具体的な事業を進めることができた。一方、第5次長期振興計画のにぎわい創出から引き継ぎ、発展的に検討することとしていた中核施設については、既存施設等を活かし分散型配置を前提として整備していく方向性に至った。今後全体的な構想を進める中で、早期に実現していく必要がある。

④ 改善 (Action)

2020年度方向性	基本構想に基づき、実施計画とともに具体的な取組を進めていく。
-----------	--------------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	中核施設の調査の様子

事業名	皆とまち再生支援事業
-----	------------

総事業費	3,515 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	商工業の振興
	基本事業名	港町（商店街）の活性化

② 実施 (Do)

事業の意図		①②支援する ③活性化する
事業の実績 と 成果	取組内容	事業募集→相談対応→審査委員会による審査（審査委員会開催）→交付決定→補助金交付→実績報告確認。事業実施後の進捗状況把握。
	成 果	（企業活動支援事業） 空き店舗活用事業 1件、販路開拓事業3件、商品開発事業1件 （港町再生支援事業）1件

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 （事業担当者記入）	成果指標において、起業まで結びつくような支援策となるかは今後検討する必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 （担当課長記入）	これまでの企業活動支援事業を発展的に港町再生基本構想と関連させる形で新たな事業構築を図った。民間の活動をまちづくりの構想に活かすことで、相乗的な効果に繋がる可能性を広げることができている。一方で、本事業を活用して起業する実績までは至っていないことから、商工会等とも連携を図りながら創業支援として後押しできるようにさらに周知の在り方も含め検討を行う必要がある。

④ 改善 (Action)

2020年度方向性	港町再生の推進とともに地域経済の活性化に向けた支援を行う。
-----------	-------------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	本事業を活用して作成されたパンフレット